

令和6年度第3回福岡市総合図書館運営審議会 議事録

- 1 日 時：令和7年3月28日（金）13：30～15：13
- 2 場 所：福岡市総合図書館 3階 第1会議室
- 3 出席者：委 員）矢崎 美香、星子 奈美、木下 博子、森 正隆、倚松 満、貞包 俊晴、
上村 篤子、白川 義人、西 聡子、白根 恵子、藤村 興晴、脇山 真治、
田中 優、藤 政江（計14名）
事務局）橋本総館長、松崎館長、永長運営課長、立石図書サービス課長、
高巣文学・映像課長 他
傍聴人）1名

4 議事録

1. 開 会
総館長挨拶
2. 議 事

(1) 議題1 令和7年度事業計画について
事務局より「令和7年度事業計画について」説明。

委員	<p>私は、毎週日曜日に子ども向けのおはなし会、金曜日に赤ちゃん向けのおはなし会を担当させていただき、また読書活動ボランティア講座の講師も引き受けている。</p> <p>3ページの「(6) 読書普及活動」の中の「読書活動ボランティア講座」について、お願いしたいことがある。この講座については、令和6年度は総合図書館の改修工事に伴い全てのコースが実施されなかったが、令和7年度は3コース全てが実施される。その中の「スキルアップコース」は、前身の「おさらい会」とは異なり質疑応答だけになると聞いた。しかし、お話を全部覚えて人前で語る「ストーリーテリング」は、かなり時間を要するもので、一度やっただけではスキルアップできない。そのため半年ぐらい時間をおいた「おさらい会」でもう一度受講生で集まり、各々語ることによりスキルアップを図っていた。こういう状況を踏まえると、質疑応答だけではスキルアップは図れない。ぜひ、スキルアップコースについて、質疑応答だけでなく、ストーリーテリング実習の機会を設けてもらえないか。検討をお願いしたい。</p> <p>また、細かいことだが、その下の「おはなし会」で、いつも不思議に思っていることがある。私の経験上、実際のおはなし会では、絵本の読み聞かせやストーリーテリングがほとんどで、紙芝居を使用することはめったに無い。そのため、事業説明で、読み聞かせと紙芝居が同列で扱われた表現に違和感がある。検討をお願いしたい。</p> <p>5ページの「(7) 子どもへの読書普及」の中の「保護者向け読み聞かせ実践講</p>
----	---

	<p>座の実施」が、令和6年度から総合図書館だけではなく分館でも始まっている。昨年3月の資料では、子どもの読書活動の推進として、この講座は、保護者対象で、司書が選んだ本を基に本の読み方や本の選び方など、すぐに実践できる体験的な講座だと書いてあり、この講座は読み聞かせボランティアを対象にしたものだと思っていた。</p> <p>なぜなら、読み聞かせのボランティア講座は、いつも応募が多く、抽選で外れる方がかなりいる。私の知っている人は8回も落ちた。8回ということは、コロナの自粛期間を合わせると10年以上抽選に外れ続けたことになり、相当忍耐強い人だと思う。10年以上抽選に外れ続けるということは、小学生の母親であれば、とうに子どもは小学校を卒業しており、「この講座はもういいや」と多分思うはず。私は、この分館で実施する「保護者向け読み聞かせ実践講座」は、そういうボランティア講座が受けられなかった人とか、図書館に遠くて来られない人のための講座だと思っていた。</p> <p>しかし、今回の記述を見ると、家庭における読み聞かせであり、この講座は読み聞かせボランティアを対象にしたものではないのか、と疑問に思ったので質問した。</p>
事務局	<p>「読書活動ボランティア講座」のスキルアップコースの内容については、この場で明確な答えが出せないなので、後日ご説明したい。</p> <p>「おはなし会」の書き方については、紙芝居を使っている分館もあるので、この表記としているが、ストーリーテリングも実施しているので、このあたりの書きぶりは、来年度以降検討したいと思う。</p> <p>また、5ページの「保護者向け読み聞かせ実践講座」は、家庭での読み聞かせを目的として、保護者向けに実践講座を実施している。ただ、多くの方が読み聞かせボランティアの講座を受けられないとのご意見を今回いただいたので、今後検討したいと思う。</p>
委員	<p>2ページの「(3) 貸出・返却サービスの充実」の「貸出・返却拠点等の新設検討」について、お尋ねする。</p> <p>たまたま先日、旅行に出かける前の早朝に西新駅のブックポストに本を返却し、電車に乗ろうと考えたが、その時間西新駅のブックポストが利用できず、不便に感じた。なぜブックポストの返却時間に制約があるのか、24時間体制にできないのか、教えてほしい。</p>
事務局	<p>ブックポストの設置場所、利用については、設置する施設と協議した上で決定している。24時間利用できればよいのだが、本以外の物が投げ込まれ本を傷める可能性があることなどから、現在は人の管理が行き届くような場所に設置している。いただいたご意見は今後の参考としたい。</p>

<p>委員</p>	<p>なお、分館の閉館時間帯に設置する返却ボックスには、利用時間に制限は無い。</p> <p>私は、先の委員とは別の読み聞かせボランティア団体に所属している。</p> <p>子どもに関してだが、全国的に障がいのある子どもや読書が難しい子どもでも読書が楽しめるように工夫された「りんごの棚」運動が広がってきていると思う。もっと気軽に、障がいのある子どもたちも、いわゆる健常の子どもたちも、みんなが読書が楽しめるような、そういう開かれたバリアフリーな棚をこども図書館に設置することが、スウェーデンから広がってきていると知った。総合図書館にはもちろん点字図書館はあるが、障がいのある子どもへの支援をどのように考えているのかと思ひ質問する。</p> <p>また、私の所属する団体では、年に1回、読み聞かせの初期研修会を行っている。ただ、メンバーが6、7人しかいないので、他には、科学の本に特化した会とか交流会などを行うのが精一杯。もう少し充実させたいと思うが私達だけでは手がまわらないので、初期研修会の講義だけでも受講できるものがあればいいと思う。</p> <p>その他に、私は、公民館のスタンダード文庫に関する講座のコーディネイトみたいなこと、詳しく言うと、公民館の依頼で、年間、15館から20館程度、公民館で赤ちゃん向けのおはなし会で、絵本の紹介や読み方のアドバイスなどを行っている。今後、希望する公民館や学校に、読み聞かせボランティアを派遣するような仕組みがあればいいと思う。</p> <p>読み聞かせに関する講座については、十数年前は、各分館で年に4、5回あったような記憶がある。その中では、大学の先生や他市から講師に来ていただき、家庭での読み聞かせの大切さについて話をしてもらっていた。同じことを全部してほしいとは言わないが、せめて年に1回、総合図書館だけでなく他の分館持ち回りでもいいので、そういう機会を設けてほしい。そういう機会があると、様々な絵本や本を知ることができたり、最初は家での読み聞かせをした方がよいか、理解が深まると思う。</p> <p>また、各種講座で、動画配信を予定しているようだが、動画も良い面があると思うが、対面で実施すると、講座終了後、必ず人が集まって、本や色々なテーマの話をし、様々な知識を得る機会がある。動画ではそういう機会が失われてしまう。感染症流行なども落ち着き、「直接会う」ということにも支障が無くなってきているので、対面で実施する機会を少しずつ増やしていったらどうかと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>言われたように、総合図書館には他の図書館にはないような点字図書館がある。こども図書館には、布でできた触る絵本がある。また分館も含め、若干ではあるが、点字図書とか拡大文字の絵本とかも置いている。</p> <p>今後、施設の改修や計画の中で、障がいのある方も含め、すべての利用者が利用しやすい図書館のあり方について、しっかりと考えていきたいと思う。</p>

	<p>ボランティアの養成講座については、学校図書館でも様々な取り組みを行っており、学校図書館との連携や分館の活用についても今後検討したい。また、コロナウイルス感染症も落ち着いているので、総合図書館としても令和7年度から読み聞かせなど様々な講座について、回数を増やしていこうと考えている。本日いただいた意見については、今後色々計画していく中で、参考にさせていただきたいと思う。</p>
委員	<p>読書に障がいがある子どもへの支援について質問が出たが、読書に障がいがある成人など、様々な読書への障がいがある。その中で、日本語が得意でない人もいると思う。そういう人達への対策として、総合図書館案内のパンフレットは、何ヶ国語で作成されているのか。</p>
事務局	<p>英語のほか、中国語、韓国語（ハングル）版を用意している。ボランティアにより訳文が提供されることもあり、最近ではタイ語版の提供があった。</p>
委員	<p>今後も外国語版を作成してもらえると有難い。</p>
事務局	<p>少しずつ増やしていきたいが、全ての外国語に対応することは困難でもあり、簡単な日本語ならば理解できるという福岡在住の外国人の中には一定数いらっしゃることから、「やさしい日本語」による案内も検討していきたい。</p>
委員	<p>個別の話ではなく全体的な話だが、令和7年度は、10年間（※延長で12年間）の新ビジョンの最後の年。10年間も続けるというのは大変なことでそう意味では大変お疲れ様でしたと思っている。一方、7年度は総括の年であり、いつも前年度の評価が決まらない内に次の年度の計画についてなかなか意見が言いづらいと思っているが、総括の年として今年は特に重要だと思う。総括をするという思いが、この資料から感じられない。10年間の総括で、この事業はここが足りない、この事業は十分できたなど、熱い思いを、この資料の中に書いていただきたい。いつもと同じ1年のような今の書き方では、総括の年であることが読み取れず、ちょっと寂しい。ぜひ、館長の熱い思いをこの冒頭にでも書いていただきたいと思う。</p>
事務局	<p>ご説明した資料では、新ビジョンに基づき、令和7年度にどのような事業に具体的に取り組むのか記載している。令和7年度は新ビジョンの最終年度であり、新しいことを打ち上げるのはなかなか難しいが、足元を固めて、できることにしっかりと取り組んでいきたい。令和7年度の大きな事業というと、ホームページの見直しが挙げられる。ホームページにより、図書館の活動、図書館システムの利用など、様々な図書館のサービスを知ってもらうことは非常に大切だと思っている。そのため、令和7年度は、ホームページの見直しということで、スマホ対応、障がい者や日本語を母国語としない人への対応、Webアクセシビリティへの対応などに取り組</p>

	<p>んでいきたい。図書館一丸となって、しっかりと取り組んでいくので、どうぞよろしく願います。</p>
委員	<p>先の委員が言われた新ビジョンの総括の話を伺って思ったのだが、13ページの図書館全体事業に「(1) 新ビジョン（基本的運営方針）の推進」が掲げられているので、そこに新ビジョンの総括について記載すれば、成果としても挙げられるのではないか。</p> <p>もし、この資料に追加記載できるのであれば、令和7年度の事業計画に新ビジョンの総括を掲げておけば、令和7年度の成果になり得るのではないかと思った。</p>
事務局	<p>「新ビジョンの推進」の中に記載している令和7年度に実施する令和6年度事業の点検評価の中で、今までの総括を行うことを記載するという意味か。</p>
委員	<p>どのような書きぶりにするか、新たな項目として追加するかは、事務局にお任せする。</p>
事務局	<p>「新ビジョンの推進」の次に「第2次ビジョンの策定」という項目があり、前回の運営審議会で、これまでの取り組みと課題を説明した。第2次ビジョン策定の過程で、一定程度総括した内容を盛り込んでいくということでご理解いただきたいのだが、「新ビジョンの推進」の項目に総括について記載した方がよいということか。</p> <p>事務局としては、現時点で、どのような書きぶりにするかは断言できない。最終的な総括としては、令和7年度事業の点検評価まで含めなければならず、令和8年度の取り組みとなる。</p> <p>令和6年度までの総括は、第2次ビジョンの策定の中で触れるという形にさせていただければと思ったが、「新ビジョンの推進」の令和6年度事業の点検評価の中で、今までの一定の取り組みに対する点検評価についても表現できないか検討したいと思う。</p>
委員	<p>今の委員の提案は、令和6年度までの11年間の総括を、令和7年度に実施することを、13ページに記載するという話。第2次ビジョンの策定で何かするという話ではないと思う。令和7年度にその前年度までの総括をすることを計画に明示してほしいということ。対応をお願いします。</p>
委員	<p>新ビジョンをどの年度で区切るかは正確に把握できていないが、先の委員が言われたように、最後の1年はやはり重要な1年であり、何かを実施したことは成果として挙げられる。そういう意味で、令和7年度の事業計画の中に、これまでの新ビジョンの振り返り、総括を行ったことを記載しておけばそれも成果と言えるのでは</p>

事務局	<p>ないかと思う。</p> <p>先ほども申したとおり、令和7年度が最終年度で、その振り返りも当然必要となるが、令和7年度の事業計画の中で、令和6年度までの振り返り、総括について、資料に反映できるよう工夫したいと思う。</p>
-----	--

(2) 報告事項 令和7年度当初予算及び機構について
議事の進行の都合上、事務局より先に報告事項「令和7年度当初予算及び機構について」説明。

委員	<p>総館長の冒頭の挨拶で、「映像機器の更新」というワードがあったと思うが、予算減の状況の中でどのように更新するのか。疑問に思ったので質問する。</p>
事務局	<p>例年、必要額を積み上げて要求しており、年度によって予算額が減になる場合もある。令和7年度の新たなものとしてフィルムスキャナーの導入がある。今までフィルムで直接上映していたものを徐々にデジタル化したもので上映できるようにし、保存と活用の両立を図る必要がある。また、老朽化が進んでいる設備については順次更新していきたい。</p>

(3) 議題2 福岡市総合図書館ビジョン（第2次）について（方針骨子を協議）
事務局より「福岡市総合図書館ビジョン（第2次）骨子（案）」説明。

委員	<p>「居心地のよい空間づくり」と、主な取り組みである「レイアウトの最適化」について、お願いしたいことがある。</p> <p>総合図書館や分館には「子どもコーナー」が設けられていて、娘が小さい頃はよく利用していた。こどもコーナーで娘が好きな本を読んでいる間に、私は一般図書の方で、自分の本を選んで読むという利用の仕方だった。私がよく利用していた城南図書館は、城南市民センターの1階にあり、奥の方に子どもコーナーがあるが、そこは受付カウンターの死角になっている。子どもの騒音の関係もあると思うが、一般図書のコーナーから少し離れており、子どもをその子どもコーナーに1人で置いておくのが、ちょっと心配なときもあった。</p> <p>そういう経験があるので、できれば、子どもコーナーは、図書館職員の目が届くところに設置してほしい。子どもコーナーの近くに受付カウンターを設置してもらえるとよいのだが、難しければ、定期的に巡回してもらいたい。そうすれば、子どもだけで利用する場合も安心感があると思う。</p>
事務局	<p>確かに城南図書館は、入口左側に一般図書、右側にこども図書で、奥にこども向けのコーナーがある。構造上、市民センターを利用するためには図書館の中を通り抜ける必要があるなど、特殊なつくりになっており、いただいたご意見を踏まえ、読書相談員などの巡回を検討したいと思う。</p> <p>また、レイアウトの変更については、市民センターや図書館のリニューアルの時に、課題として検討していきたい。</p>

委員	<p>第2次ビジョンとは、次の10年の計画、基本的運営方針を決めるということ。先ほどの話にもあったが、課題がどこにあるのかが最初に見えないと次の10年をどう描くか考えるのは難しいと私は思う。私は、今の福岡市総合図書館の一番の課題は、「読書人口の減、来館者数の減」と思うので、この課題について、どのような方策を実施してこのように増やすという具体的な事を書いた方がよいのではないかと考えている。色々な方向性があると思うが、私には、具体性というものがあまり感じられない。この方向性で取り組んでも、現状を変えられないのではないかと。新たな何かもう一手を、この骨子に上乘せするぐらいしないと、課題の解決には至らないのではないかと。そんな危惧を少し持った。具体的に何をすればよいかということについて、個人的に考えていることはあるが、先ずは、第2次ビジョンの議論で、「読書人口の減、来館者数の減」という大きな課題の解決策を押さえた方がよいと思う。事務局としてはどのように考えるか。</p>
事務局	<p>「利用者の減」については、読書人口の減少もあり、なかなかコロナ禍前の状況まで回復していない。また、今日お配りした資料には無いが、市政に関する意識調査の中では、図書館の様々なサービス、図書館の魅力が、市民に伝わっていないのではないかと総括もいただいている。</p> <p>しっかりと取り組んでいるつもりではあるが、その事業内容が市民になかなか伝わっていない。利用者数の増には、新たな利用者層の新規開拓が重要であり、市民に向けて取り組みをしっかりとアピールできるよう、楽しい時を過ごせる図書館を骨子に掲げ、利用者の拡大を図っていきたい。</p> <p>具体的な方策の記載については、本編等で工夫させていただきたいと思う。</p>
委員	<p>私は小学校校長会の代表として、図書館像の3つ目「子どもの豊かな心を育み、支える図書館」の部分をとて心強く読ませてもらった。この中の主な取り組みで、「学校司書の充実にあわせた支援」と書かれている。報道等で皆さんも知っておられるかもしれないが、学校司書の配置が見直され、司書資格を持つ50人弱の学校司書の他、小学校に100名、司書資格不要な学校司書Bが配置されることになった。私が校長を務める小学校は、学校司書Bが配置される予定。どれだけ応募があるのか。卒業式から入学式に至るこの忙しい時期に、公募や面接を行い、この制度が今後成り立つか心配していたが、第2次ビジョンに「学校司書の充実にあわせた支援」と書かれていて、とても心強く思う。</p> <p>本校は、読み聞かせボランティアの活動もとても盛んで、学校司書Bではなく、ボランティア養成講座に応募される保護者もいるが、先ほど話が出ていたように、4回も抽選に外れた方がいるのが、現状である。学校司書には、学ぶ機会を与え、レベルアップしてもらえばよいと思う。単に人を配置すればよいというものではなく、どう子どもたちにレファレンスを行い、学習につなげていくのか、そういう知識が必要である。教育委員会でも、少ないながら研修を行っているが、</p>

事務局	<p>第2次ビジョンで、「学校司書の充実にあわせた支援」が掲げられているのは本当に有難い。子どもの力になれるよう、学校司書の支援を切に願っている。</p> <p>総合図書館には、学校図書館支援センターという部門がある。</p> <p>委員が言われるとおり、令和7年度からは、学校司書Bを100名配置する予定で、現在募集中であり、司書資格を持つ学校司書を含めると150名近くの学校司書が配置される予定。これに伴い、学校司書Bが1人1校受け持つことにより、司書資格を持つ学校司書の負担が、1人あたり4校から2～3校に軽減されると聞いている。</p> <p>また、将来的には、学校司書1人が1校を担当することになれば、業務に集中できると考えている。学校図書館のレイアウトや運営方針は、学校ごとに異なると思うが、現在学校図書館の充実に取り組んでいると関係部署から聞いているので、総合図書館としても学校図書館支援センターを通じて、子どもの読書活動の推進に対して、可能な限り、今後も支援したい。</p> <p>次期第2次ビジョンについては、今後の学校の取り組みを踏まえながら、本編で具体的なことを記載したいと考えている。</p>
委員	<p>私も学校司書が増員されることは大変喜ばしい事だと思っているが、司書資格を問わない学校司書Bに対する研修は非常に重要になってくる。</p> <p>公共図書館では、同じ仕事をする人が複数いるので、迷ったときに尋ねることができるが、学校司書Bは1人1校の配置のため、難しい面がある。そういうことを踏まえると、しっかりとした研修を受ける機会が必要である。</p> <p>今後その研修が、教育委員会の方で行うのか、学校図書館支援センターを中心に行われるのか分からないが、研修の重要性を理解していただき、ぜひ総合図書館の方からも、関係部署に働きかけてほしい。</p> <p>学校図書館支援センターの仕事も増えると思うが、予算確保が厳しい状況なので、十分な対応ができるのか少しに不安に思うところもある。</p>
事務局	<p>先ず予算についてだが、事業を縮小するつもりは無く、今までどおりしっかりと支援をしていくつもりである。</p> <p>また、学校司書については、教育委員会としては、年2、3回程度ではなく、年8回程度研修を実施する予定と聞いている。総合図書館としても、学校図書館支援センターの読書相談員をその研修に派遣して、本の配架の仕方や分類方法など初歩的なことからしっかりと説明し、学校での活動を充実させようと考えている。</p>
委員	<p>基本理念「未来へつなげる知のひろば」について、私は良いと思う。10年経つと当初の理念も陳腐化してくる。今回の基本理念は、シンプルでかなり普遍的なフレーズで、10年後に見てもおかしくないという印象を持った。</p>

	<p>また、新ビジョンの4つ目の図書館像「総合図書館の特色を生かした図書館」が第2次ビジョンで無くなった理由については、先の説明を聞き納得した。</p> <p>基本方針については、せっかく良い基本理念を掲げたのだから、未来志向のものが良いと思う。5年後の見直しの時期や10年後に、良いねと思えるぐらいの未来志向で、持続性や挑戦的な面も意識しながら、基本方針を立ててほしい。</p> <p>基本的運営方針だから、策定時点で必ず予算措置が確約されなければならないわけではなく、この理想をどう今後実現していくかということが重要。私も含め市民が、第2次ビジョンから何か夢を描けると、10年後にはきっと良い図書館になるのではないかと期待している。</p>
委員	<p>前回の運営審議会の資料を踏まえ、今回の骨子案を読んだが、基本理念なども今日審議して良い内容なのか。</p>
事務局	<p>この会議で、ご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>先の委員も言われていたが、第2次ビジョンは前回に比べ、基本理念がシンプルになっている点は良いと思った。ただ、「未来へつなげる」という表現や基本理念の説明では、包括的な表現も大事だと思うが、何をどうつなげるのかももう少し具体的なものがあった方がいいのではないかと感じた。</p> <p>図書館を「知のひろば」と言うだけでは、図書館の継続・永続だけが目的のようにも見えるので、知のひろばとしてこういうものを未来につなげたいという表現がもう少しあれば、10年生きるとても良い理念になると思う。</p> <p>また基本理念の説明は、前半で、総合図書館が生涯学習施設であると言い、後半で、近年のデジタル化などに対応しながら、未来へとつなげるため、知のひろばを目指すと書かれている。後半の「近年のデジタル化、少子高齢化の急速な進展などの社会情勢の変化に柔軟に対応しながら」という部分は、知のひろばである総合図書館が対応するということか。ざっくりと見ると、市民が対応するとも読めて、どちらの意味でもとれる文章になっているので、言いたいことが正確に伝わるような文章に書き換えた方がよいのではないかと感じた。</p>
委員	<p>私は出版に携わっている関係で、出版業界や書店の思いも伝えられたらと思っていて。現在「福岡を本のまちに」というキャッチフレーズで、「BOOKUOKA（ブックオカ）」というイベントで、毎年様々な催しを行っている。このイベントは20年になるが、皆様ご存じのとおり、この20年、特に近年、書店が減少し続けており、書店空白地域も拡大している。総合図書館に近い西新地区においても、最近書店が閉店するというニュースが流れ、都市部においても書店空白地域の問題が生じている。</p> <p>図書館が収蔵している本の大部分は、出版社が作成したものだと思うが、本当に</p>

	<p>出版業界は未来につながっていくのか危機感を持っている。今まで、BOOKUO KAや図書館の催事の中で、連携したりしたこともあるが、最近他の図書館では、図書館に本を買えるコーナーを設置したという話も聞いている。</p> <p>第2次ビジョンに直接関係はないが、本の魅力を伝えたい、本に親しむ人を増やしたいという大きな視点から見ると、もう少し、図書館、出版社、書店が、連携というか共闘というか、踏み込んだことをやっていかないといけない時代になりつつあると感じている、そういう時代の趨勢も視野に入れていくことが、今後の10年に必要ではないかと思っている。</p>
委員	<p>第2次ビジョンの基本理念について、簡潔でよいという意見が出ているが、私は異なる意見である。「未来へつなげる知のひろば」では、図書館像の「誰もが本との楽しい時を過ごせる図書館」、「子どもの豊かな心を育み、支える図書館」という、行きやすく親しみやすい、本に触れられる場所という感じがせず、距離を感じる。宇宙や科学への興味や、何かを知りたいという子どもは多い。それでも、勉強や本を読むことは嫌だけど、話を聞くのは好きという子どもたくさんいる。そういう状況も踏まえると、「未来へつなげる知のひろば」が前面に出ている、未来を担う子どもたちが来館してくれるのか、ちょっと心配である。そういう意見があることも踏まえて、考えてほしい。</p>
委員	<p>先ほど、新ビジョンの4つ目の図書館像「総合図書館の特色を生かした図書館」が第2次ビジョンで無くなったことについては、先の説明を聞き何となく納得したと言ったが、納得していない点があり、「総合」という表現が図書館像から消えたのは非常に悲しい。</p> <p>書籍や雑誌、映像等を集めるという「総合」ではなく、今回改めて総合の意味を考えてみた。福岡市には、博物館、科学館、美術館、アジア美術館があり、それぞれ知的財産を有している。それらの知的財産を包括する場が総合図書館だという考えを持つと、知的財産を有する福岡市の施設との連携について、もっとやりようがあるのではないかと考える。</p> <p>「総合」という表現も含め、以上のような考えを、第2次ビジョンに取り入れたらどうかと思っている。</p>
事務局	<p>たくさんご意見をいただいたが、現時点でお話できる部分を回答させていただく。</p> <p>まずは「未来に何をつなげるのか」というご意見については、あえて少しオープンな感じの表現にしているところである。委員の方々が言われるとおり、子どもが未来の担い手である、知的財産を所蔵する場であるなど、様々なイメージがあり、過去から現在、未来へとつないでいくという広い観点から、夢が持てるキーワードとして、未来へつなげるという表現を現在とっている。</p>

	<p>また、基本理念の説明の中の「社会情勢の変化に柔軟に対応するのは誰か」というご質問については、主体は図書館だと考えており、今回いただいた皆様の意見を踏まえて、どういった表現が望ましいか今後検討させていただきたい。</p>
事務局	<p>先ほど「総合」というお話があったが、文化芸術の基本的な方向性を示すものとして、図書館など各施設への言及まではないが「福岡市文化芸術振興計画」というものがある。第2次ビジョンは、総合図書館という施設に限定したもののなので、委員のおっしゃるような文化芸術部門に踏み込んだ記載は範囲を超えてしまう。ご理解願いたい。</p>
委員	<p>基本理念の「知のひろば」についてだが、「知＝書籍や映像や音も含めた知識を得る。」と考えると、感覚的に分かりにくいと思った。「知識のひろば」という表現の方がしっくりくるのではないかと個人的に思った。</p>
委員	<p>簡単に回答できないと思うので、このような案も出たと検討いただければと思う。</p>
委員	<p>今回ご説明された第2次ビジョンの骨子案は、すごくいいなと思っている。この先10年の未来につながる知のひろばについて、私から1つお願いしたいことがある。それは、第2次ビジョンの中に「子育て」というようなキーワードを組み込んでもらえないかということ。</p> <p>その理由としては、いくつかあるのだが、その1つは、私のPTA活動での経験に基づくものである。私が会長を務めている小学校のPTA活動の中で、懇談会等で保護者が集まり話をすると、子育てについてどこに相談していいか分からない、どこで学べるか分からないなど、子育てに悩みや不安を抱えている保護者がすごく多い。最近PTAが任意の活動であることが広まりPTA活動がなくなった学校があったり、少人数での運営をしていたりする。保護者が共働きなどで活動に参加しづらくなり、ボランティア制を導入していることで、良い面悪い面がある。保護者同士のつながりや地域とのつながりが薄くなり、子育ての悩みが増えてきているように感じる。</p> <p>こういう状況があるので、「我が子とのコミュニケーションに悩んでいる方はどうぞ図書館に来てください」というような、図書館に行けば子育ての悩みが解決できる方策がないか私なりに考えてみた。例えば、他の委員が言われていたように家庭での読み聞かせが子どもとのコミュニケーションに良い影響を与えることをしっかりと伝えることができれば、図書館が家庭の悩みを解決できる場となる。そういう意味で、「子育てにつながる図書館」というようなフレーズが入るとすごく良いのではないかと思います。ぜひ検討をお願いします。</p>

<p>委員</p>	<p>私は、図書館は気軽に利用できる場所であることが非常に大事と思っている。基本方針に「誰もが利用しやすいサービスの提供」と書かれているが、本当にちょっと行ってみようかと気軽に寄ってもらえる環境を作ることがとても大切である。</p> <p>私が携わっている校区は、ちょうど早良区の真ん中に位置しており、南に少し進むと早良南図書館がある。しかし、非常に交通の便が悪く、直行バスもほとんど無いため、早良区の最南部からも訪れるのは非常に難しい。そういうことも来館者数に影響してくると思う。総合図書館付近は非常に交通の便が良いが、すべての場所がそうではない。各校区に公民館があるので、公民館の図書を今後も充実させてほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどの「子育て」のご意見に対して、追加したいことがある。事業計画資料の3ページの「(5) 情報提供の充実」の中に「課題解決型支援」の記載があるが、事業内容として掲げられている項目の他、「子育てへの支援サービス」もとても大事なことではないかと思う。総合図書館における子育て支援サービスの取り組みとして、ブックスタートがあるが、子育てが本当に大変な今、活動を広げ、不登校や、引きこもりなど様々な問題に対して、図書館から何かの情報提供ができると素晴らしい。課題解決型サービスの一環として、ぜひ取り組んでいただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>多くの意見が出されたが、特に子どもに対する読書指導の部分で、子どもの読書推進のために、保護者、スタッフ、ボランティアの問題を解決しなければならないと、各方面から意見が出された。今後の課題として、この辺りをどのように充実させていくかが、多分第2次ビジョン、福岡市総合図書館の核となると思う。</p> <p>やはり図書館の使命は本と利用者をつなぐということ、基本理念は「つなげる」という表現だが、図書館がこのつなぐという断固たる思いを担っていけるような第2次ビジョンを作っていただきたい。</p> <p>本日出た意見を踏まえて今後検討してもらい、第2次ビジョンの詳細をつめていただくようお願いする。</p>

3. 閉会
館長挨拶